



ガラスは落とすとどうしてわれるの

おもに、けい砂をとかして作るガラス

けい砂、ソーダ、石灰をまぜて熱すると、どろどろにとけます。これをひやすと、とう
 明な固体になり、これをふつう、ガラスとよんでいます。このガラスは、板ガラスやガラ
 スびんなどに使われます。

ガラスは落とすとわれやすい

一般に使われるガラスは、落したり、外から強いしょうげきを与えられたり、熱せら
 れたりすると、かんたんにわれる性質をもっています。

ふつうのガラスには、1ミリメートルの1000分の1という、顕微鏡でしか見えない
 小さな傷が数えきれないほどついています。

まったく傷がないガラスにくらべると、100分の1から1000分の1くらいの強さ
 しかありません。このため、ガラスは落とすとわれやすくなっているのです。

強いガラスも

自動車や水族館などの窓ガラスは、簡単にわれてはこまります。こうしたガラスは、こ
 われにくくするために、特別に加工して作られます。この強く作ってあるガラスを、強化
 ガラスとよんでいます。（監修 青木国夫）

